

# 第48回 全国高等学校柔道選手権旭川支部大会

兼 令和7年度 北海道高体連旭川支部柔道競技新人大会

## 開 催 要 項

1. 主 催 旭川柔道連盟 北海道高等学校体育連盟旭川支部

2. 期 日 令和7年11月7日(金)

開 場 ( 8:00～ )

会 場 設 営 ( 8:00～ )

計 量 ( 9:10～9:30 )

公 式 練 習 ( 9:30～10:00 )

審 判 会 議 ( 9:30～ 9:40 )

監 督 会 議 (審判会議後)

諸 注 意 (10:00～10:10 )

競 技 開 始 (10:10～ )

団 体 戦 (10:10～ )

個 人 戦 (13:00～ )

閉 会 式 (15:30～ 予定 )

3. 会 場 東光スポーツ公園 武道館

旭川市東光24条7丁目 TEL (0166-31-3510)

## 4. 参 加 資 格

- (1) 選手は学校教育法第1条に規定する高等学校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍する生徒であること。
- (2) 北海道高等学校体育連盟に加盟している生徒で、全国大会の参加資格を得た者。
- (3) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入している者、または加入意志のある者。
- (4) 今年度、(一社)北海道柔道連盟を経て、(公財)全日本柔道連盟に登録を完了した者。
- (5) 平成20年4月2日以降に生まれた者(令和7年4月2日現在、18歳未満であり第1・2学年に在籍)同一学年の出場は1回限りとする。
- (6) チーム編成においては、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
- (7) 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。(外国人留学生もこれに準ずる。)ただし、一家転住等の理由によりやむを得ない場合は、高体連旭川支部長の許可があればこの限りではない。
- (8) 引率責任者は当該校の教員、監督は当該学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお、引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。また、公認柔道指導者資格取得者以外の教員は、『学校顧問特例資格審査申請書』を提出していること。
- (9) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する校長の承認を得ること。
- (10) 参加資格の特例
  - ① 上記(1)(2)に定める生徒以外で大会要項により大会資格を満たすと判断され、高体連旭川支部長が推薦した生徒について、別途定める規定に従い大会参加を認める。
  - ② 上記(5)については、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の全道大会への出場は、2回限りとする。
- (11) 外国人留学生については、卒業を目的として入学していること(短期留学は認めない)。
- (12) 脳震盪対応として、選手およびその指導者は下記事項を厳守すること。
  - ① 大会1ヵ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
  - ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。至急、専門医(脳神経外科)の精密検査を受けること。
  - ③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診察を受け、許可を得ること。
  - ④ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により自己報告書を提出すること。
- (13) 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は大会への出場ができない場合もある。

[大会参加資格の別途に定める規定]

- (1) 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、北海道高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。
- (2) 以下の条件を具備すること。
  - ① 大会参加を認める条件
    - ア. 全国高等学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
    - イ. 参加を希望する専修学校及び各種学校にあっては、学齢、就業年限ともに高等学校と一致していること。また、連携校の生徒による混成は認めない。
    - ウ. 各学校にあっては、部活動が教育の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員の指導のもとに適切に行われており、部活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失していず、運営が適切であること。
  - ② 大会参加に際し守るべき条件
    - ア. 全国高等学校柔道選手権大会旭川支部大会実施要項を遵守し、大会申し合わせ事項等に従うとともに大会の円滑な運営に協力すること。
    - イ. 大会参加に際しては、責任ある教員が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。
    - ウ. 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

## 5. 競技規則

- (1) 試合は国際柔道連盟試合審判規定ならびに北海道高体連柔道旭川支部申し合わせ事項による。
- (2) 団体試合
  - ① 試合時間は3分とする。延長戦(ゴールデンスコア)は時間制限を設けない。
  - ② 「優勢勝ち」の判定基準は「技有」「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。
  - ③ チーム間の内容が同等の場合は代表戦を行う。代表戦の方法は「6 競技方法」で定める。
- (3) 個人試合
  - ① 試合時間は3分とする。
  - ② 「優勢勝ち」の判定基準は、「技有」「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。
  - ③ 試合終了時に技による評価が同等および指導差1以内の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。延長戦は、「技有」「有効」以上または「指導」の数に差がでた時点で勝敗を決する。
- (4) 団体試合の代表戦及び個人試合において、両試合者が「累積による同時反則負け」の場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。

## 6. 競技方法

- (1) 団体試合
  - ① 男子 5人制
    - ア. **点取り試合**とし、組合せは抽選とする。なお、試合毎にオーダー変更を認める。
    - イ. 参加チームが5チーム以内の場合は1リーグ戦とする。6チーム以上の場合は、予選2ブロックリーグ戦により下記決勝トーナメント進出3校を決める。  
今年度の試合形式については専門部で決定していく。
    - ウ. 試合内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦の優勢勝ちの判定基準は「技有」「有効」または「僅差」以上とし、試合終了後に得点差がない場合はゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

【決勝トーナメント】



- エ. 本大会上位3チームは、全国高校柔道選手権北海道予選大会への出場権を得る。
- オ. 本大会上位3チームは、来年度高体連旭川支部予選会にシードする。

## ② 男子 3人制

ア. 各チーム間の試合は点取り試合とする。

イ. 試合は各チーム2名以上で行い、試合毎にオーダー変更を認める。

ウ. ※1 判定基準：選手対選手それぞれの試合の勝敗は、「技有」「有効」または「僅差」以上とする。僅差は「指導差2」とする。

エ. ※2 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ. ※3 ※2で同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

カ. ※4 ※3で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

キ. ※5 ※4で同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ク. ※6 ※5で同等の場合は代表戦を行う。

代表戦は引き分け対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。代表戦の優勢勝ちの判定基準は「技有」「有効」または「指導1」以上とする。なお、引き分け対戦がない場合は、両者反則負けなどで勝敗つかなかった対戦を代表戦とする。また、両チームが選手の負傷で2名しかおらず、引き分け対戦がない場合などは、代表選手をすべての対戦の中から抽選で選出して、ゴールデンスコア方式の試合を無制限で行う。

ケ. ※7 代表選で「指導」の累積により同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットし再度ゴールデンスコア方式で延長戦を行い必ず勝敗を決する。

## ③ 女子

ア. 3人制（先鋒、中堅、大将）の点取り試合とする。なお、試合は各チーム2名以上で行い、試合毎のオーダー変更を認めない。

イ. 順番は先鋒52kg以下の選手、中堅63kg以下の選手、大将は体重無差別とする。

ウ. 試合時間は3分とする。

※ 判定基準については、男子3人制に準ずる。「② 男子団体3人制 ク」参照

## (2) 個人試合（男子・女子）

① 男女とも体重別（4階級）と無差別の原則としてトーナメント戦により行う。

② 全道出場決定リーグ

勝敗が同内容の場合は、以下の勝ち点で順位を決定する。ただし、勝ち点が高点の場合は抽選により代表者を決定する。

（本戦の一本勝：10点、技有勝：5点、指導差勝：4点、GSの一本勝：3点、技有勝：2点、指導差勝：1点）

## 7. チーム編成

(1) 男子団体5人制は、監督1名・選手6名・マネージャー1名の8名とする。

※選手は3名から5名でも良い。なお、3名もしくは4名の場合は、

**後ろ詰め**（先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける。）とする。

(2) 男子団体3人制は、監督1名・選手4名・マネージャー1名の6名とする

※2名で出場の場合は、**後ろ詰め**で配列すること。（中堅・大将で登録）

(3) 女子団体は、監督1名・選手3名・補欠2名・マネージャー1名の7名とする。

※両チームとも2名での対戦となった場合は、配列をそのままの順序で**後ろ詰め**（先鋒を空ける）。

なお、2名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りの配列とする。

(4) 外国人留学生のチーム人員は、1名以内とする。

## 8. 体重測定

11月7日（金） 9時10分から9時30分までの間に行う。

## 9. 体重区分

(1) 男子個人の体重区分は次の4階級及び無差別とする。

60kg級・66kg級・73kg級・81kg級・無差別級

(2) 女子個人の体重区分は次の4階級及び無差別とする。

48kg級・52kg級・57kg級・63kg級・無差別級

## 10. 申込方法

### (1) 申し込み方法

旭川龍谷高校HP「第48回 全国高等学校柔道選手権旭川支部大会申込」のページより「参加申込書（個人・団体）」をダウンロードし、次の①、②の要領で送付する。

① 必要事項を入力し、印刷後、公印を押印して、下記の（2）宛に郵送提出する。

② ①で作成した申込みデータを（2）宛へメールで送付する。

### (2) 申し込み先

〒078-8340 旭川市東旭川町共栄15-2 旭川龍谷高等学校

柔道大会事務局 葛西 大樹 宛

TEL) 0166-39-2700 FAX) 0166-39-2705 メール送付先 t-kasai@ryukoku.ed.jp

### (3) 申込期限

令和7年10月14日（火）16時00分 **必 着**

### (4) 参加料

参加料は大会当日に納入すること。

団体（男子・女子） 1チーム 5,000円

個人（男子・女子） 1名 2,000円

## 11. 運営委員会・抽選会

令和7年10月21日（火）午前10時00分

〒079-8505 旭川市永山7条16丁目3-16 旭川志峯高等学校 多目的室（2階）

※ 組み合わせについては、運営委員による厳正な抽選を行う。

## 12. 全道大会

男子団体5人制 上位3校

男子団体3人制 上位3校、

女子団体 自由参加

男子個人 60kg級4人、66kg級4人、73kg級4人、81kg級4人、無差別級12人、

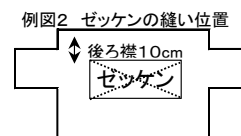
女子個人 各階級とも選考された者とする。

## 13. ゼッケンについて

参加選手はゼッケン（名字、所属校名入り）を柔道着に取り付けること。

ゼッケンを取り付けていない選手は、出場できない。

布 地	白色（晒、太綾）
サ イ ズ	横30cm±3cm × 縦22cm±3cm
文 字 位	名字は上側3分の2、所属（校）名は下側3分の1
書 体	太いゴシック（楷書）、男子は黒、女子は赤
縫 い 位	後ろ襟から10cm、対角線にも強く縫い付ける



## 14. 引率・監督

(1) 引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。監督は校長の認める当該校の職員または指導者とする。監督については、校長から委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に記された者）も可とする。

### (2) 監督の役割

監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

### (3) 監督の行為・言動

① 試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し、指示を与えることができる。

② 次の行為を禁止する。

ア. 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。

イ. 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

#### 15. 諸連絡

- (1) 申し込み後、出場者に変更を生じた場合は、当該高等学校長の証明書を添えて、11月7日（金）の監督会議に届けること。
- (2) 試合用の紅白の帯は、各校で用意すること。
- (3) 各校の3年生に補助生徒を依頼する。
- (4) 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。
- (5) 選手は、必ず当該校引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負うものとする。
- (6) 宿泊は、各学校で手配すること。